

もがみ大豆だより

第3号<病害虫・雑草対策編>
令和5年8月17日
最上総合支庁 農業技術普及課
TEL：29-1329（作物担当）

良質大豆生産のポイント！

- ①病害虫の適期防除の徹底
- ②残存雑草の処理（圃場外への搬出）

1 病害虫適期防除の徹底

マメシクイガ

防除時期：8月25日頃+その10日後（計2回）

- ・連作圃場や前年多発した圃場では密度高い
→昨年発生が多かった圃場は特に注意！
- ・薬剤が莢まで付着するよう丁寧に散布する
- ・2回防除を徹底！1回では効果が低い！



マメシクイガ 成虫と被害粒

紫斑病

防除時期：開花期25日～35日後（8月下旬～9月上旬、1回）

- ・薬剤が莢まで付着するよう丁寧に散布する
- ・開花12日～40日後が感染しやすい時期
→気温25℃以上かつ多湿条件だと感染拡大が助長される
- ・罹病した莢や子実が翌年の発生源になる
→多発した場合は、同一圃場での連作は避ける



紫斑粒

2 残存雑草対策の徹底

残存雑草は早めに抜き取り

- ・残存雑草は①子実肥大の阻害、②収穫時の障害、③汚損粒の発生などの原因となる
- ・こぼれ種が来年の多発の原因になる
→結実前に抜き取り
→種子がこぼれないよう圃場外に搬出

除草剤使用時は薬害に注意

- ・大豆本葉に薬剤が付着すると薬害のリスクがある
→専用ノズルを使用し、細心の注意を払う



大型化しやすい雑草アザミ（左）、アザミ（右）

STOP!

農作業事故!!

- ①農薬は必ず使用方法を確認し、正しく使用しましょう！
- ②農作業はあせらず、きもまず！
- ③熱中症に注意！適度に休憩をとりましょう！